

本人の許可なしにプライベートな情報が集められているのはなぜでしょうか？

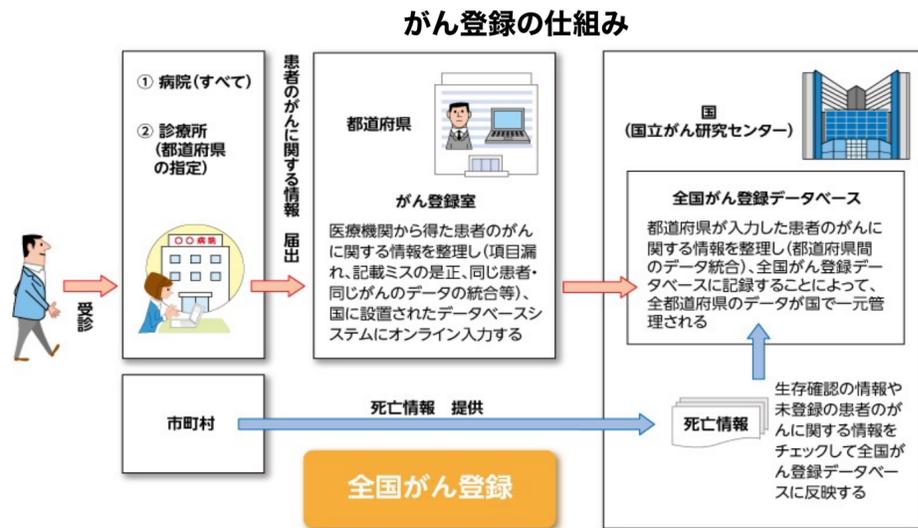
ご安心ください。がん登録は法律に基づき厳正に運営されています。

がん登録では「がん登録等の推進に関する法律」に基づいて、日本でがんになったすべての方の罹患と死亡に関連する情報を継続的に収集しています。国のがん統計の基礎となり、政策決定に利用されるデータを収集する重要な事業であるため、収集に際し本人の同意を得る必要はないとされています（個人情報保護法「第三者提供の制限」における除外項目に該当）。

私たち神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防・情報学部（以下、当学部）では、神奈川県におけるがん登録の実務（登録・照合・データ提供等）を神奈川県からの委託で実施しています。

神奈川県地域がん登録は50年以上も前の1970年から、全国がん登録は2016年から実施されています。当初は個々の都道府県を主体として開始され、それを全国一括で実施できるように整備したという経緯です。

全国がん登録の開始に伴い、地域がん登録を統合した県も多いなか、神奈川県では長年にわたり収集された独自の調査項目の継続性、地域への円滑ながん登録情報の還元を鑑み、現在も両者を並行して運営・管理しています。



国立がん研究センター がん情報サービス「全国がん登録とは」より引用

ご存知ですか？ **がんになったすべての方の情報が集められています。**

「がん登録」をご存知ですか？

若い方で子宮頸がんや乳がんになる方が増えている、というニュースを聞いたことがありますか？

これらの根拠となっているのは、がん登録で得られたデータです。

日本に住む全住民を対象とし、すべてのがん情報が収集されることで、歪

みのない日本のがんの全体像を明らかにすることができます。冒頭の事実は、乳がんや子宮頸がんの毎年の罹患を国や都道府県できちんと記録し、年齢によるばらつきを補正することではじめて得ることができるものです。

また、匿名化され個人の識別ができない状態にしたうえで、がん登録データが医学研究に利用されることもあります。例えば、がん検診の判定結果がどの程度正確かを罹患データをもとに

調べたり、将来のがん罹患者の増加を推計して国民医療費の予測に役立てたりといったこともがん登録データによって可能になります。

特に近年は国の保有する国民健康保険や介護保険などのデータベースと組み合わせることにより、医療ビッグデータを活用した精緻かつダイナミックな研究が可能となる体制づくりが期待されています。

子宮頸がん年齢調整罹患率



神奈川県地域がん登録データより

ご存知ですか？ **がん登録ではじめて明らかにできる事実** があります。

個人情報漏れる危険性はないのでしょうか？

国際規格の認証を取得しています。

がん登録情報のセキュリティリスクを最小限に抑えるため、当学部では、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際規格「ISO 27001」の認証を取得しています。

がん登録では、罹患後の追跡やデータの同一性の確認のため、氏名や生年月日などの個人情報をはじめとして、多くの重要な情報が蓄積されています。

こうした重要な情報資産を安全に取り扱うことができるよう、全国がん登録では厳格な情報管理規定が設定されていますが、本学部ではこれに加えて国際規格でもある本認証を取得し、情報セキュリティ体制の維持管理を継続的に行っています。

広く神奈川県内の公衆衛生関連情報を取り扱い研究活動を行うという本学部の性質上、認証の対象にはがん登録とともに、本学部で他に運営・管理する『神奈川県みらい未病コホート研究』および『がん検診精度管理業務』が含まれています。

認証規格：ISO/IEC 27001:2013/JIS Q 27001:2014
 認証登録番号：IS 732061
 認証登録範囲：神奈川県内におけるがん罹患及び死亡に関するデータの管理業務及び疫学に関するデータの管理業務 適用宣言書 第2版
 認証機関：BSIジャパン株式会社



IS 732061 / ISO 27001

ご存知ですか？ **国際規格の情報セキュリティ認証**を受けた体制で管理されています。

参考リンク：

国立がん研究センター「がん登録」



神奈川県「がん登録」



神奈川県立がんセンター「地域がん登録」



神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん予防・情報学部